

令和 8 年度 第 1 回上越市スポーツ推進審議会 次第

日 時 令和 8 年 6 月 12 日（金）午前 10 時～
場 所 教育プラザ研修棟 大会議室

1 開 会

2 挨拶 上越市スポーツ推進審議会 周東委員長

3 議 題

(1) 第 3 次総合教育プランに基づくスポーツ関係施策の取組状況（令和 7 年度実績）
【資料 1】

(2) 第 3 次総合教育プランに基づくスポーツ関係施策の取組（令和 8 年度計画）
【資料 2】

(3) 上越市スポーツ施設整備方針について（案）【資料 3】

4 そ の 他

「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」の概要
（地域クラブ活動推進室）【資料 4】

5 閉 会

第 3 次総合教育プランに基づくスポーツ関係施策の取組状況（令和 7 年度実績）

プラン 4 スポーツの振興

取組 4－1 スポーツ活動の充実

□ 目標

健康づくりや体力づくり、生きがいくくりや競技力の向上などの多様なスポーツ活動を通じて、人と地域が結び付き、活力のある地域社会を実現する。

1 スポーツ活動の普及推進

□ 成果指標

評 価 内 容	令和 7 年度 目標	令和 7 年度 実績	達成状況
1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動を週 2 回以上、1 年以上実施している人の割合 ※実施率：市内の特定健康診断結果	38.4%	35.1%	×

【参考】令和 3 年度：34.2% 令和 4 年度：35.7% 令和 5 年度：35.0% 令和 6 年度：37.0%

□ 評価

- ・ 特定健康診断結果による運動習慣の実施割合は、40 代、50 代の女性において数値が低下しており、令和 7 年度目標値に対して 3.3 ポイント下回った。
- ・ 気候変動による長引く猛暑や冬期間の大雪などの影響により、全体的に外出機会が減少していることも要因として考えられる。
- ・ 各種教室の参加者数では、ニュースポーツ教室は前年度に比べて約 4 割減少し、親子運動あそび教室は約 2 割減少している一方、上越一健康運動プログラム（J-WELLNESS）教室では、各会において概ね定員に達し、前年度に比べて参加者数は 1 割以上増加している。
- ・ スポーツイベントでは、運営スタッフや参加者の減少により、地域の恒例行事である体育祭が一部で中止になったほか、「えちご・くびき野 100 km マラソン」は次回大会をもって終了となるなど、人口減少や少子高齢化の影響が地域ごとに出始めている。

□ 主な取組

(1) スポーツ推進委員によるスポーツの指導・啓発

日常的にスポーツができる環境づくりを目指し、各種教室やスポーツイベントに指導者としてスポーツ推進委員を派遣した。

内 容	実施回数・参加人数	
	令和 7 年度（実績）	令和 6 年度（実績）
○出前講座 スポーツ推進委員による市民対象の講座 ・ニュースポーツ教室 ・地域での健康体操 ・市民向け体力測定会など	94 回/120 回 3,623 人	104 回/120 回 4,045 人
○ニュースポーツ教室 親しみやすい各種ニュースポーツの体験 (1 教室 20 人募集)	16 回/16 回 74 人	16 回/16 回 121 人
○親子運動教室 2 歳から 5 歳児を対象とした親子の運動教室 (1 教室 15 組 30 人募集)	4 回/4 回 58 人	4 回/4 回 72 人

(2) 上越一健康運動プログラム（J-WELLNESS）教室

上越教育大学と連携して、生活習慣の改善と健康増進を推進するため、有酸素運動及び体幹トレーニングの個別プログラムを提供した。

会 場	実施回数・参加人数	
	令和 7 年度（実績）	令和 6 年度（実績）
高田スポーツセンター 上越市総合体育館	39 回/40 回 1,031 人	45 回/45 回 912 人



(3) 総合型地域スポーツクラブによるスポーツ教室の開催

スポーツクラブのない大島区、牧区でスポーツ教室を定期的を開催し、スポーツを楽しむ機会を提供した。

会 場	実施回数・参加人数	
	令和 7 年度（実績）	令和 6 年度（実績）
大島多目的ホール ふれあい館他	18 回/18 回 64 人	18 回/18 回 252 人
牧体育館他	14 回/14 回 239 人	12 回/12 回 264 人



(4) スポーツ大会・教室、各種団体等への支援

・各種団体への支援

上越市スポーツ協会が実施するジュニア世代のアスリートの育成・強化を支援した。

	スポーツ指導者養成事業補助金	スポーツアスリート育成強化事業補助金
概要	上越市スポーツ協会加盟の 8 団体の指導者養成を支援し、選手育成と指導体制を強化した。	上越市を拠点に活躍するアスリートの育成・支援を目的に実施し、令和 7 年度は 9 競技で展開した。
回数	—	優秀指導者招聘強化事業 3 回 遠征強化試合・強化合宿 1 回 全国大会出場 14 回
参加者数	495 人	—

・スポーツ大会等の支援

内 容	令和 7 年度		令和 6 年度 参加者数
	実施日	参加者数	
米山山麓ロードレース大会	4 月 20 日(日)	634 人	611 人
スカイスports大会	5 月 10 日(土)～11 日(日) 8 月 23 日(土)～24 日(日) 10 月 25 日(土)～26 日(日)	184 人	145 人
高士地区・高士小学校体育大会	5 月 24 日(土)	180 人	200 人
廃校を活用した交流の場創出 (スポーツクライミング)	5 月 24 日(土)、11 月 16 日(日)	300 人	
歩こまいか名立	6 月 1 日(日)	11 人	25 人
高田城ロードレース大会	6 月 1 日(日)	2,158 人	2,024 人
やすづかSports大会	6 月 8 日(日)	180 人	189 人
うらスポマラソン大会	6 月 15 日(日)	300 人	264 人
八千浦地区活性化・健康増進 事業「ニュースports DAY」	6 月 15 日(日)、9 月 28 日(日) 10 月 26 日(日)、12 月 7 日(日)	333 人	
くびき総合Sportsフェスタ	7 月 6 日(日)～10 月 19 日(日)	1,123 人	1,361 人
ビーチバレーボール 4 人制 inJOETSU 大会	7 月 13 日(日)	209 人	249 人
名立区不動山登山	7 月 21 日(月・祝)	28 人	41 人
高士地区ニュースports普及 事業	8 月 1 日(金)～3 月 29 日(日)	100 人	
ビーチラグビー上越大会	8 月 23 日(土)～24 日(日)	260 人	250 人
中郷区体育祭	8 月 31 日(日)	300 人	300 人
市民Sports祭	9 月 23 日(火・祝)～11 月 23 日(日)	2,225 人	1,850 人
上越自転車まつり	9 月 27 日(土)	100 人	488 人
三和区Sports大会(体育祭)	9 月 28 日(日)、10 月 19 日(日)	600 人	中止
「テニスのまち柿崎」Sports 交流促進事業	10 月 11 日(土)～12 日(日)	124 人	102 人
松ヶ峰トリムマラソン大会	10 月 13 日(月・祝)	101 人	108 人
三和区Sports大会(駅伝)	10 月 19 日(日)	140 人	中止
三郷地区健康ウォーク事業	10 月 26 日(日)	40 人	
清里区秋季Sports交流会	11 月 1 日(土)	200 人	200 人
名立区駅伝競走大会	11 月 3 日(月・祝)	180 人	180 人
名立バスケットボール支援事業	11 月 15 日(土)	60 人	
中郷歩くスキーとクロスカン トリースキー大会	2 月 15 日(日)	70 人	65 人
清里区冬季Sports交流会	3 月 1 日(日)	180 人	200 人
レルヒカップスキー&スノー ボード大会	3 月 14 日(土)	137 人	中止
吉川区体育祭	—	中止	中止
牧区体育祭	—	中止	154 人

(5) パラスポーツ体験事業

日本財団パラスポーツサポートセンターと連携して、パラアスリートによるデモンストレーションやパラスポーツ体験等の出前授業を実施した。

No.	実施校（学年）	日 程	参加者数	備考
1	大潟町小学校（4 年生）	5 月 13 日（火）	79 人	あすチャレ！スクール
2	飯小学校（6 年生）	5 月 14 日（水）	49 人	
3	牧小学校（全校）	5 月 15 日（木）	24 人	
4	高士小学校（5、6 年生）	5 月 16 日（金）	21 人	
5	大和小学校（6 年生）	5 月 16 日（金）	34 人	
6	三和小学校（6 年生）	6 月 12 日（木）	41 人	あすチャレ！ジュニアアカデミー



(6) ドイツへのジュニア選手派遣事業

東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおけるドイツ柔道選手団の受け入れを契機に始まった相互交流について、市内ジュニア選手の派遣を支援した。

競技	日 程	派遣先	派遣人数
柔道	10 月 10 日（金）～17 日（金） （前泊及び移動日含む）	ドイツ バーデン＝ヴュルテンベルク州カールスルーエ等	6 人 （選手 5 人、指導者 1 人）

- ・ 11 月 16 日（日）東京 2020 ドイツ交流記念_第 41 回上越柔道大会で報告会を実施
- ・ 12 月 24 日（水）上越市役所で市長への報告会を実施



2 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業

□ 成果指標

評価内容	令和7年度目標	令和7年度実績	達成状況
市内の総合型地域スポーツクラブ、上越市スポーツ協会に所属する会員の人口に対する割合	12.5%	11.0%	×

□ 評価

- ・ 総合型地域スポーツクラブ及び上越市スポーツ協会の会員数の人口に対する割合は、令和7年度目標値に対して1.5ポイント下回った。
- ・ 会員数は、令和5年度20,060人、令和6年度19,507人、令和7年度19,397人と徐々に減少傾向にあり、人口減少や少子高齢化などの社会的な影響に大きく起因し、会員数の維持は困難な状況である。
- ・ 会員数の減少によって、総合型地域スポーツクラブ及び上越市スポーツ協会の運営が徐々に厳しさを増していることから、将来に向けた安定した組織運営に関する意見交換を関係者等と進めながら、地域のニーズに即した持続可能な運営体制への見直しが必要である。

□ 主な取組

(1) 総合型地域スポーツクラブ活動支援補助金

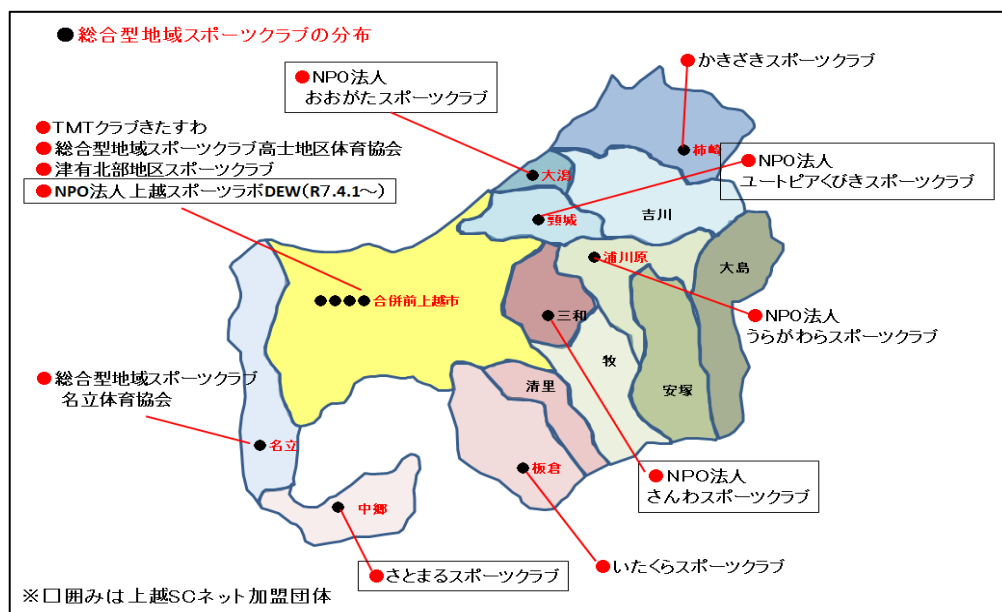
地域住民が自主的・自発的な運営により、子どもから大人まで生涯にわたって様々なスポーツをそれぞれの目的に応じて楽しむことのできる総合型地域スポーツクラブの設立を支援した。

- ・ NPO法人上越スポーツラボ DEW（令和7年4月1日設立）

(2) 総合型地域スポーツクラブ活動運営補助金

地域におけるスポーツ活動の推進役となる総合型地域スポーツクラブの活動をサポートする上越SCネットの運営を支援した。

※一般社団法人上越SCネット（加盟クラブ：さんわスポーツクラブ、ユートピアくびきスポーツクラブ、おおがたスポーツクラブ、さとまるスポーツクラブ、上越スポーツラボ DEW）



(3) 総合型地域スポーツクラブ研修会

クラブのスタッフや指導者等を対象に、SNS を活用した情報発信力の向上を図るための研修会を開催した。

開催日時	令和 8 年 2 月 1 日
会 場	直江津学びの交流館
内 容	「SNS の効果的な活用」について Instagram を活用した情報発信の方法など（参加者数：21 人）



(4) 総合型地域スポーツクラブ体験会（上越 SC ネット主催）

多様なスポーツ活動の機会を提供し、総合型地域スポーツクラブの認知度向上を図るための体験会を実施した。

開催日時	① 9 月 23 日、② 9 月 28 日、③10 月 5 日、④10 月 19 日、⑤11 月 3 日
会 場	①三和体育館・三和スポーツセンター、②大潟体育センター、③リージョンプラザ上越、④頸城 B&G 海洋センター、⑤中郷総合体育館
内 容	ヒップホップダンス、バドミントン、リズムジャンプ、ニュースポーツ、スケートボード、体軸トレーニング、チアリーディング、健康体操、カポエラ、バレーボール、インディアカ、グラウンドゴルフ、パルクール、ACP（※） （参加者合計：285 人）



※アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）

（公財）日本スポーツ協会が開発した、幼児期の子どもが発達段階に応じて身につけるべき動きを、様々な運動遊びを通して楽しく習得できる運動プログラムのこと。

3 スポーツ競技力の向上

□ 成果指標

評価内容	令和7年度 目標	令和7年度 実績	達成状況
中高生の北信越大会と小・中・高生の 全国大会出場者数	668 人	546 人	×

□ 評価

- ・ 中高生の北信越大会と小・中・高生の全国大会出場者数は、令和7年度目標値に対して122人下回った。
- ・ 一方で、ジュニア世代の競技力の向上を目指した「地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業」及び「ジュニアトップアスリート育成強化事業」の対象競技である空手道（90人）、バレーボール（34人）、スポーツクライミング（1人）、柔道（7人）、スキー（54人）、硬式野球（61人）の選手の活躍が全体の約5割を占める状況となった。

□ 主な取組

(1) ジュニアアスリートの育成

ジュニア期から少年期まで一貫した指導体制で選手の育成・強化に取り組む競技団体を支援した。

- ・ 上越市スポーツ少年団補助金（補助事業218千円）
- ・ 地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業（県補助事業1,833千円）
空手道、バレーボール、スポーツクライミング
- ・ ジュニアトップアスリート育成強化事業（補助事業1,330千円）
柔道、硬式野球、スキー競技
- ・ 上越市スポーツ協会ジュニアスポーツクラブ補助金（補助事業1,527千円）



地域ジュニア育成事業（バレーボール）



ジュニアトップ育成強化事業（硬式野球）

(2) 日本体育大学との連携事業

専門指導者を招き、市内のジュニアアスリート及び指導者を対象に、技術面や指導面に関する研修会「柔道ジュニアアスリートスキルアップ練習会」を開催した。

開催日	令和8年2月23日
会場	謙信公武道館 小道場
講師	日本体育大学柔道部
参加者数	上越地区小学生、中学生、高校生柔道選手・柔道指導者 計129人

※予定していたバレーボール競技は、大学側の大会日程と重なったため中止

(3) スポーツ活動サポート事業

小・中学校で行われる課外活動及び部活動の競技力の向上を図るため、専門的な知識と技術を有する外部指導者を派遣した。

区 分	派遣種目	令和 7 年度（実績）	令和 6 年度（実績）
小学校	水泳	6 回/9 回（上雲寺）	9 回/9 回（上雲寺）
	クロスカントリースキー	3 回/9 回（中郷）	9 回/9 回（中郷）
	陸上	—	7 回/7 回（稲田） 4 回/4 回（直江津）
中学校	サッカー	14 回/14 回（城北）	23 回/25 回（城北）
	バスケットボール	43 回/52 回（城東）	49 回/50 回（城東）
	バレーボール	52 回/52 回（頸城）	52 回/52 回（頸城）
	ソフトテニス	8 回/15 回（春日）	13 回/20 回（城東） 11 回/52 回（春日） 35 回/52 回（柿崎）
	剣道	36 回/36 回（直江津東） 4 回/4 回（吉川）	44 回/52 回（直江津東） 4 回/20 回（吉川）
	柔道	—	44 回/52 回（直江津東）
	卓球	52 回/52 回（春日） 49 回/52 回（大潟町） 7 回/52 回（三和）	52 回/52 回（春日） 48 回/52 回（大潟町） 32 回/52 回（三和）
	野球	44 回/52 回（春日） 10 回/10 回（名立）	19 回/20 回（春日） 52 回/52 回（名立）
	陸上	2 回/3 回（吉川） 47 回/52 回（中郷）	34 回/52 回（直江津東） 10 回/13 回（吉川） 52 回/52 回（中郷）
	駅伝	21 回/26 回（中郷）	—
	クロスカントリー	—	52 回/52 回（牧） 31 回/52 回（中郷）
計		11 種目 398 回/490 回（12 校）	13 種目 686 回/853 回（16 校）

(4) 指導者講習会の開催

児童生徒の発達特性やハラスメントなど、保護者が安心して指導を任せられる指導者の確保・育成を図るため、指導者向けの研修会を開催した。また、講習会内容の録画を用いたビデオ講習会を開催した。

開 催 日	4 月 13 日
会 場	上越文化会館
内 容 師	上越教育大学 講師「地域クラブ活動の指導者として大切なこと」 青山学院大学 教授「地域クラブマネジメントの視点からこれからの地域クラブの在り方を考える」
受講者数	55 団体 19 種目 123 人 5 団体 3 種目 24 人（ビデオ講習会）

(5) スポーツ&カルチャーわくわくトライアルの開催

中学校部活動の地域展開を見据え、子どもたちが「やってみたい」活動を自ら選択できるように、様々なスポーツ・文化芸術活動を通じて、“楽しさ”や“面白さ”を感じてもらう機会を提供した。

開催日	11月15日
会場	リージョンプラザ上越 インドアスタジアム
参加団体	13団体（スポーツ団体7、文化団体6） 柔道、ソフトボール、バドミントン、剣道、太極拳、マルチスポーツ、ラグビー 玩具パフォーマンス、ボードゲーム、eスポーツ、プログラミング、読み聞かせ、 茶道
来場者数	889人 内訳：大人392人 子ども353人、参加団体144人

※昨年までの「地域クラブフェア」から名称を変更して実施。



会場全体



ソフトボール体験

【参考】上越市スポーツ協会及び総合型地域スポーツクラブが実施した主なイベント等

主催団体	内容	実施日	参加者数
一般財団法人上越市 スポーツ協会	幼年野球大会	9月20日(土) 9月21日(日) 9月23日(火・祝)	783人
	市民親善ゴルフ大会	9月28日(日)	613人
	青年野球大会	8月14日(木) 8月15日(金)	588人
	少年野球大会	8月2日(土) 8月3日(日)	267人
	3×3 バスケ大会	8月15日(金)	209人
	謙信公祭奉納武道大会	8月16日(土) 8月24日(日) 8月31日(日)	538人
津有北部地区スポー ツクラブ	TST 杯グラウンドゴルフ大会	10月12日(日)	約60人
	冬季運動会	1月25日(日)	中止
高士地区体育協会	高士地区高士小学校体育大会	5月24日(土)	約250人
	TST 杯グラウンドゴルフ大会	10月12日(日)	約60人
TMT クラブきたすわ	まつりっち in 北諏訪	10月18日(土)	約400人
NPO 法人上越スポーツ ラボ DEW	中高生のアスリートサポート	4月18日(金)～ 3月19日(金)	約130人
	オリンピック交流会	4月19日(土)	20人
NPO 法人うらがわらす スポーツクラブ	うらスポマラソン	6月15日(日)	336人
かきざきスポーツク ラブ	秋季バレーボール大会	10月13日(月・ 祝)	106人
	かきざきスポーツフェスティ バル(駅伝大会)	10月26日(日)	150人
NPO 法人おおがたスポ ーツクラブ	大潟バレーボール大会	7月6日(日)	171人
	おおがたオープンテニス大会	7月27日(日)	120人
ユートピアくびきス ポーツクラブ	UKS カップサッカー大会	6月1日(日)	200人
	高齢者スポーツ大会	6月7日(土)	180人
さとまるスポーツク ラブ	さとまるスポーツクラブ体験 会	8月31日(日)	約300人
	中郷区体育祭	8月31日(日)	約300人
いたくらすスポーツク ラブ	板倉ふれあいまつり キッズ パーク(スポーツ体験会)	11月2日(日)	57人
	チャレンジエアロ大会	10月12日(日)	200人
さんわスポーツクラ ブ	さんわソフトバレー大会	6月15日(日)	30人
	ふれあいテニス大会	11月23日(土)	19人
総合型地域スポー ツクラブ名立体育協会	歩こまいか名立	6月1日(日)	11人
	名立区駅伝競走大会	11月3日(月・祝)	180人

取組４－２ スポーツ環境の充実

□ 目標

スポーツ施設が適正に配置され、安全で快適にスポーツができる環境を整備する。

１ 体育施設の整備

□ 成果指標

No.	評価内容 (1施設当たりの年間延べ利用者数)	令和７年度目標 (R2～R6 平均値)	令和７年度 実績	達成状況
1	体育館	17,419 人	22,261 人	○
2	野球場	5,415 人	5,823 人	○
3	多目的広場	4,791 人	5,659 人	○
4	テニスコート	6,760 人	6,774 人	○

□ 評価

- ・ 1施設当たりの利用人数は、目標値に対して体育館は28%増、野球場は8%増、多目的広場は18%増となり、テニスコートは目標値を若干上回った。
- ・ 特に体育館は、各種大会の利用者数が増加したほか、1団体当たりの利用回数が増加したことにより、目標値を大きく上回った。
- ・ 高田城址公園陸上競技場公認更新に向けた改修工事や、頸城区のユートピアくびきふれあいグラウンド及び柿崎区の柿崎第一庭球コートの人工芝張替工事などに伴い施設を休止したことにより、一部の施設で利用者数は若干減少した。
- ・ 令和８年度の工事に向けて、リージョンプラザ上越の大規模改修工事に向けた設計業務委託を実施したほか、予定した各種工事や備品の更新を当初計画のとおり完了した。

□ 目標を達成するための事業等

(1) 体育施設の整備・修繕費、備品購入費

①主な委託業務

実施内容		金額（千円）	完了
リージョンプラザ上越インドアスタジアム等照明 LED 化工事設計業務委託	照明 LED 化等	4,235	令和 8 年 1 月
リージョンプラザ上越トイレ改修工事設計業務委託	トイレの洋式化等	12,980	令和 8 年 3 月
牧体育館大規模改修工事設計業務委託	長寿命化に向けた外壁・屋根・建具改修、照明 LED 化等	6,107	令和 8 年 1 月
頸城 B & G 海洋センター大規模改修工事設計業務委託【R6 繰越】	長寿命化に向けた外壁・屋根・建具改修等	4,473	令和 7 年 6 月

②主な工事等

実施内容		金額（千円）	完了
リージョンプラザ上越館内換気設備更新工事	換気設備入替	54,505	令和 8 年 2 月
高田城址公園陸上競技場公認更新工事	トラック舗装（オーバーレイ、高圧洗浄等）、レーンライン塗装等	61,951	令和 8 年 4 月 【R7 繰越】
柿崎第一庭球コート人工芝張替工事	人工芝張替	58,300	令和 7 年 10 月
ユートピアくびきふれあいグラウンド人工芝張替工事	人工芝張替	236,500	令和 7 年 11 月
オールシーズンプール空調機蒸気コイル交換工事	プール内空調用設備交換	7,563	令和 7 年 10 月

③主な備品購入等

品名	施設名	金額（千円）	完了
陸上競技場公認検定備品の更新（電子音スタート発信装置、超音波風速計等）	高田城址公園陸上競技場	16,867	令和 7 年 11 月
硬式用テニスネット、テニスポスト	上越総合運動公園テニスコート	398	令和 7 年 5 月
ホームベース	高田城址公園野球場	46	令和 7 年 5 月
ピッチャープレート、塁ベース・ホームベース	スポーツ公園野球場	230	令和 7 年 5 月
グラウンドレーキ	藤野野球場、びょうぶ谷野球場、スポーツ公園野球場・多目的広場	52	令和 7 年 7 月
コートブラシ	上越総合運動公園テニスコート、高田城址公園庭球場、少年野球場	319	令和 7 年 5 月

④建築物等法定点検（令和 7 年 8 月完了）

建築物点検（8 か所）、建築設備点検（15 か所）、防火設備点検（6 か所）、消防設備点検（1 か所）

⑤高田城址公園陸上競技場の公認検定（令和 8 年 4 月 17 日～18 日）【R7 繰越】

日本陸上競技連盟による第 2 種競技場の更新

(2) 体育施設の適正配置（前期計画：R3～7 年度）

施設名	計画	備考
柿崎体育館	令和 8 年 3 月 31 日廃止	（仮称）柿崎区新保育園の建設用地として活用

第 3 次総合教育プランに基づくスポーツ関係施策の取組（令和 8 年度計画）

プラン 4 スポーツの振興

取組 4-1 スポーツ活動の充実

□ 目標

健康づくりや体力づくり、生きがいをづくりや競技力の向上などの多様なスポーツ活動を通じて、人と地域が結び付き、活力のある地域社会を実現する。

1 スポーツ活動の普及推進

(1) 目指す姿

多くの市民が、市内各所で、健康増進に向けた多様なスポーツに取り組める環境を目指す。

(2) 取組方針

スポーツへの関心の高まりを具体的な行動や実践へとつなげるため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会等の各種スポーツ団体への支援、スポーツ推進委員の参画により、健康の保持・増進を目的としたスポーツ教室やイベントなどの幅広いスポーツ活動を実施する。

□ 成果指標

評 価 内 容	令和 8 年度目標	令和 7 年度実績
1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動を週 2 回以上、1 年以上実施している人の割合 ※実施率＝健康づくり推進課、検診参加者の調査結果	40.0%	35.1%

□ 目標を達成するための主な取組

(1) 取組内容

① スポーツ推進委員によるスポーツの指導・啓発（137 回、延べ 468 人派遣）

日常的にスポーツができる環境づくりを目指し、各種教室やスポーツイベントに指導者としてスポーツ推進委員を派遣する。

② 上越一健康運動プログラム（J-WELLNESS）教室

上越教育大学と連携して、生活習慣の改善と健康増進を推進するため、有酸素運動及び体幹トレーニングの個別プログラムを提供する。

No.	会 場	日 程	回数	延べ参加者見込
1	高田スポーツセンター	4 月 22 日～ 6 月 24 日	8	240 人
2	上越市総合体育館	7 月 1 日～ 8 月 26 日	8	240 人
3	上越市総合体育館	9 月 2 日～10 月 28 日	8	240 人
4	高田スポーツセンター	11 月 4 日～12 月 23 日	8	240 人
5	上越市総合体育館	1 月 20 日～ 3 月 10 日	8	240 人

③ 総合型地域スポーツクラブによるスポーツ教室の開催

総合型地域スポーツクラブのない区で、スポーツを楽しむ機会を提供する。吉川区、清里区は令和 8 年度から新たに実施する。

No.	区	会場	期間	回数	種目
1	牧	牧体育館ほか	5 月～11 月	12	ウォーキング等
2	吉川	吉川区コミュニティプラザほか	5 月～11 月	10	ヨガ等
3	清里	清里区コミュニティプラザほか	5 月～11 月	8	ソフトエアロ等

④ スポーツ大会・教室、各種団体等の支援（補助金・交付金）（51,539 千円）

No.	内容	予算額
1	高田城ロードレース大会補助金	5,085 千円
2	市民スポーツ祭補助金	786 千円
3	ビーチバレーボール大会補助金	183 千円
4	ビーチラグビー大会補助金	640 千円
5	レルヒカップスキー大会補助金	425 千円
6	やすづかスポーツ大会補助金	78 千円
7	牧体育祭補助金	138 千円
8	くびき総合スポーツフェスタ補助金	210 千円
9	吉川体育祭補助金	175 千円
10	中郷歩くスキーとクロスカントリースキー大会補助金	168 千円
11	松ヶ峰トリムマラソン大会補助金	336 千円
12	中郷区体育祭補助金	291 千円
13	清里区秋季スポーツ交流会補助金	150 千円
14	清里区冬季スポーツ交流会補助金	140 千円
15	三和区スポーツ大会補助金	485 千円
16	名立区駅伝徒競走大会補助金	207 千円
17	歩こまいか名立補助金	48 千円
18	不動山登山補助金	50 千円
19	えちご・くびき野 100km マラソン交付金	17,681 千円
20	米山山麓ロードレース大会交付金	1,920 千円
21	スカイスポーツ大会交付金	550 千円
22	高士地区・高士小学校体育大会事業	55 千円
23	えちご・くびき野 100km マラソン直江津おもてなしプロジェクト	1,539 千円
24	八千浦地区活性化・健康増進事業「ニュースポーツ DAY」	21 千円
25	えちご・くびき野 100km マラソン保倉区応援活動事業	42 千円
26	うらスポマラソン大会開催事業	325 千円
27	「テニスのまち柿崎」スポーツ交流促進事業	122 千円
28	光ヶ原高原ヒルクライム	2,331 千円
29	廃校を活用した交流の場創出事業（スポーツクライミング）	1,539 千円
30	名立バスケットボール支援事業	22 千円
31	上越市スポーツ協会運営費補助金	12,817 千円
32	スポーツアスリート育成強化事業補助金	2,100 千円
33	スポーツ指導者養成事業補助金	880 千円

⑤ 各種体験教室等の開催

ドイツとの交流やパラスポーツ体験を通じてスポーツ振興を図ると共に、国際交流への関心や共生社会への理解を深める。

実施事業名	事業内容
あすチャレ！スクール	パラアスリートによるデモンストレーションやパラスポーツを体験する出前授業（中郷小学校、明治小学校、上下浜小学校、稲田小学校、吉川中学校）
あすチャレ！ジュニアアカデミー	パラアスリート講師による講話や障がいの疑似体験を通じて「障がい」について考える出前授業（三和小学校）
トップアスリート交流事業	トップアスリートによる技術指導やスポーツとの向き合い方を学ぶ交流会
ドイツへのジュニア選手受入事業	市内競技団体とドイツ競技団体との自主的な交流を継続していくことを目指し、ドイツのジュニア選手を上越市に受入れを支援。

2 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業

(1) 目指す姿

総合型地域スポーツクラブは、会員数の減少により体制を維持していくことが困難になりつつあるが、個々の総合型地域スポーツクラブがまとまる等、自発的な組織の再編を支援することにより、地域におけるスポーツ活動が推進されることを目指す。

(2) 取組方針

総合型地域スポーツクラブの自発的な組織の再編と健全な運営を支援し、身近な地域で市民が多様なスポーツに取り組む機会を提供する。

□ 成果指標

評価内容	令和8年度目標	令和7年度実績
市内の総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会に所属する会員の人口に対する割合	13.0%	11.0%

□ 目標を達成するための主な取組

(1) 取組内容

① 総合型地域スポーツクラブの活動支援

地域におけるスポーツ活動の推進役となる、総合型地域スポーツクラブのネットワーク化を担う上越 SC ネットの運営を支援する。

※一般財団法人上越 SC ネット（加盟クラブ：さんわスポーツクラブ、ユートピアくびきスポーツクラブ、おおがたスポーツクラブ、さとまるスポーツクラブ、上越スポーツラボ DEW）

② 総合型地域スポーツクラブ研修会

総合型地域スポーツクラブの指導者や地域の生涯スポーツ関係者を対象に、指導者資質の向上を図るための研修会を実施する。

③ 総合型地域スポーツクラブとの意見交換

社会情勢の変化を捉えたスポーツ機会の提供や部活動の地域展開など、スポーツに関する地域課題に対応していくため、スポーツクラブの安定した組織運営の在り様について、関係者等と継続的に意見交換を行う。

3 スポーツ競技力の向上

(1) 目指す姿

多くの指導者が育成され、ジュニア期からトップレベルまでの指導が充実することで競技力の向上を目指す。

(2) 取組方針

指導者の育成や確保のため、協定を結ぶ体育大学や実業団チーム等と連携した最先端の指導方法が学べる講習会を開催するとともに、部活動指導者が地域で活動できる環境整備に向けた市内スポーツ団体の体制づくりを支援する。

□ 成果指標

評価内容	令和 8 年度目標	令和 7 年度実績
中高生の北信越大会と小・中・高生の全国大会出場者数	570 人	546 人

□ 目標を達成するための主な取組

(1) 取組内容

① ジュニアアスリートの育成

ジュニア期から少年期まで一貫した指導体制を整備し、競技人口の増加を図るとともに、選手の育成・強化を支援する。

- ・上越市スポーツ少年団補助金（218 千円）
- ・ジュニアトップアスリート育成強化事業（1,330 千円）
柔道、硬式野球、スキー競技
- ・地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業（1,833 千円）※県補助事業
空手道、バレーボール、スポーツクライミング
- ・上越市スポーツ協会ジュニアスポーツクラブ補助金（1,527 千円）

② 日本体育大学との連携事業

日本体育大学から専門指導者を招き、市内のジュニアアスリート及び指導者を対象に、技術面や指導面に関する研修会を開催する。

区分	内容
種目	バレーボール（男子）※予定
内容	ジュニアアスリートの練習会及び指導者クリニック

③ スポーツ活動サポート事業

小中学校で行われる課外活動及び部活動の競技力の向上を図るため、専門的な知識と技術を有する外部指導者を派遣する。

区分	派遣依頼種目	実施予定
小学校	水泳、クロスカントリースキー（2 種目）	2 校 19 回
中学校	サッカー、バスケットボール、卓球、野球、陸上、クロスカントリースキー（6 種目）	7 校 347 回

④ スポーツ指導者が地域で活動できる環境整備

・ 認定地域クラブ活動指導者研修会の開催

認定地域クラブ活動において、指導者による不適切行為の防止を徹底するとともに、参加する子どもたちが安全・安心に活動できる環境を確保するため、適正な資質・能力を有する指導者の育成を図る研修会を開催する。

・ 体験イベントの開催

子どもたちが「やってみたい」と思う活動を主体的に選択できるよう、地域のスポーツ・文化芸術活動の体験を通じて、「楽しさ」や「面白さ」を実感できるイベントを開催する。

取組４－２ スポーツ環境の充実

□ 目標

スポーツ施設が適正に配置され、安全で快適にスポーツができる環境を整備する。

１ 体育施設の整備

(1) 目指す姿

スポーツ施設が適正に配置され、安全で快適にスポーツができる環境整備を目指す。

(2) 取組方針

- ・安全で快適なスポーツ環境を維持していくため、ユニバーサルデザイン指針等に基づき、施設や設備、用具の機能維持に努める。
- ・利用実態やニーズの変化などを踏まえ、施設の統廃合や機能の拡充、新たな施設・機能の整備など計画的に進めスポーツ関連施設の適正配置に取り組む。

□ 成果指標

No.	評価内容 (1 施設当たりの年間延べ利用者数)	令和 8 年度目標 (R3～R7 平均値)	令和 7 年度実績
1	体育館	19,422 人	22,261 人
2	野球場	5,911 人	5,823 人
3	多目的広場	5,246 人	5,659 人
4	テニスコート	7,545 人	6,774 人

□ 目標を達成するための主な取組

(1) 取組内容

① 主な委託業務

実施内容	金額（千円）
リージョンプラザ上越インドアスタジアム等照明 LED 化工事監理業務委託	工事施工監理 7,997
リージョンプラザ上越トイレ改修工事監理業務委託	工事施工監理 13,170
頸城 B&G 海洋センター大規模改修工事監理業務委託	工事施工監理 4,488

② 主な工事等（工事費 10,000 千円以上抜粋）

実施内容		金額（千円）
リージョンプラザ上越館内トイレ改修工事	館内トイレの洋式化等	310,000
リージョンプラザ上越インドアスタジアム・アイスアリーナ照明 LED 化工事	照明設備の LED 化	137,500
リージョンプラザ上越インドアスタジアム音響設備改修工事	インドアスタジアム内の音響設備の改修	25,267
頸城 B&G 海洋センター大規模改修工事	長寿命化に向けた外壁・屋根・建具及びプール設備の改修	213,983

③ 主な備品購入等

品名	施設名	金額（千円）
ビーチバレーコートバレーボール用アンテナ	船見公園ビーチバレーボールコート	42
体育施設受付窓口用パソコン	浦川原区、吉川区	556
ピッチャープレート、ホームベース、塁ベース	高田城址公園野球場	374
テニスコートネット	スポーツ公園テニスコート、上越総合運動公園テニスコート	508
コートブラシ	上越総合運動公園テニスコート	258

④ 建築物等法定点検

種別	施設名	金額（千円）
消防設備点検	保倉体育館、高田城址公園弓道場	68
建築物・建築設備・防火設備点検	高田スポーツセンター、浦川原体育館 ほか 5 施設	2,898
建築物・建築設備点検	高田城址公園野球場、陸上競技場 ほか 9 施設	3,450
建築設備・防火設備点検	総合体育館、教育プラザ体育館 ほか 3 施設	1,025
建築設備点検	勤労身体障害者体育館、安塚 B&G 海洋センター ほか 5 施設	1,120
空調設備点検	総合体育館・勤労身体障害者体育館	792

※ 建築物点検…3 年に 1 回実施

建築設備点検・消防設備点検…毎年実施

防火設備点検…設備や面積要件等により該当する建築物について毎年実施

空調設備点検…定格出力に応じて 3 年に 1 回実施

(案)

上越市スポーツ施設整備方針について

～～ 新たなスポーツ施設の整備に向けた考え方 ～～

令和8年6月1日
上越市教育委員会 スポーツ推進課

背景

- 上越市の総人口は、20年後の2045年には約22%減少（約13.7万人）が見込まれ、スポーツ関係人口も同様に減少する見通しである。
- 生活様式の変化や余暇活動の多様化等により、取り組みやすい個人競技のニーズが高まるとともに、団体競技ではチームの統合・再編が進んでいる。
- スポーツ施設数は総体的に充足しているものの、冬期間は屋外競技施設が使用できないため、体育館の需要が高まる。
- スポーツ需要の変化への対応や施設の管理運営に係るコストが年々増加しており、スポーツ施設の計画的な再編・統廃合（適正配置）を進めている。
- スポーツ施設は、地域の行事や文化・芸術活動、防災機能など、スポーツ以外にも様々な用途で利用されている。



各競技団体からの整備要望

サッカー、水泳、テニス、陸上、野球、ソフトボールの各団体は、上越市スポーツ協会を通じて、教育委員会に対してスポーツ施設の新設・改修要望を継続的に行うとともに、市に対しても個別に要望活動を行っている。

2 各競技団体からの整備要望

【上越市スポーツ協会要望】

団体名	区分	整備内容	特記事項
ソフトボール協会	改修	今泉スポーツ公園に男子2面が確保できる規模の球場を整備（既存野球場の転用）	当初要望の「専用球場」を変更
サッカー協会	新設	上越総合運動公園にクラブハウス付きの人工芝サッカー場（2面）	
テニス・ソフトテニス協会	新設	上越総合運動公園にテニスコート4面分のカーペット、又はマット敷きの屋内多目的コート	
野球協会	新設	上越総合運動公園に高校野球等の公式大会が開催可能な野球場	
水泳協会	新設	教育プラザ多目的広場付近にオールシーズンプールとリージョンプラザ上越（市民プール）を統合した日本水連公認規格の長水路・短水路・サブプール機能付きの屋内プール	
陸上競技協会	機能拡充	陸上競技場内にナイター照明	当初要望の「西側スタンドの増設」を変更

（その他）

ビーチバレーボール連盟	新設	常設コート（4面）	船見公園に仮設コートを毎年整備
アクティブスポーツ協会	新設	屋内アクティブスポーツ施設	

3 各競技団体の主要要望理由

※共通の想い・・・より良い環境で練習をさせたい

大きな大会を誘致し、レベルの高い試合を見せたい

競技普及のシンボルとなる施設がほしい

団体名	課題・必要性	整備効果
ソフトボール協会	➢ 清里スポーツ公園グラウンドでは、ナイター設備が無く、男子2面を確保できない状況 ➢ 冬期間の練習場所が不足	➢ 日本ソフトボール協会が推奨する国際規格に基づく球場で大会運営が可能
サッカー協会	➢ 土のグラウンドは複数あるものの、天然芝又は人工芝が主流であり、市内には人工芝コートが2施設（頸城・柿崎）しかなく、需要過多で施設不足 ➢ 冬期間の練習場所が不足（屋内施設は一部民間で設置あり）	➢ 令和6年度協会所属チームの全体試合数は834試合であり、そのうち市外では627試合が行われており、新設した場合は467試合の誘致の可能性あり ➢ 稼働率の低い土のグラウンドを廃止し、他競技の活動場所として利活用
テニス・ソフトテニス協会	➢ 屋外競技は冬期間の練習場所が不足（屋内施設は一部民間で設置あり）	➢ 冬期間の練習環境として、テニスのみならず、様々な競技で利用できる施設として需要は高い ➢ テニス教室を通年開催できるほか、軟式テニスでは天皇杯といった大規模大会の誘致の可能性あり
野球協会	➢ 高田城址公園野球場では、平成30年以降、県高校野球大会の開催なし ➢ 冬期間の練習場所が不足（屋内施設は一部民間で設置あり）	➢ 高校・大学野球やプロ野球2軍の試合などの誘致の可能性あり ➢ 稼働率の低い野球場を廃止し、他競技の活動場所として利活用
水泳協会	➢ 築50年となるオールシーズンプールの老朽化が著しく、特に循環設備の部品調達が困難であり、故障箇所によっては休館せざるを得ない状況 ➢ 築42年となるリージョンプラザ上越（市民プール）や複数ある学校プールの経年劣化が年々進んでおり、修繕対応に苦慮	➢ 各種水泳競技大会のほか、プールを活用した多様な教室や研修会等の誘致の可能性あり ➢ 学校プールの代替機能として活用 ➢ 既存の屋外プールを廃止し、建替費用や維持管理費などのコスト縮減
陸上競技協会	➢ 高田城址公園陸上競技場では、日没後の練習ができず、活動時間が制限	➢ 夜間練習が可能 ➢ 猛暑対策

- 施設の老朽化や競技人口の減少が進む中、各団体の競技普及に向けた熱意や想いは十分理解でき、新たな施設整備を望む声は、教育委員会としても一つの有効な手段として必要性は認められる。
- しかし、スポーツ施設の整備に当たっては、例えば一定規模の専門施設であれば、構想段階から工事完了まで5年を要し、事業費も多額となることから、各団体からの要望内容を短期間で実現していくことは困難である。
- 新たなスポーツ施設の整備を事業化へと確実に結び付けていくためには、将来のスポーツ需要を見据えた優先度を整理しておくことが肝要である。
- 施設整備の優先順位を判断する明確な評価基準を設定し、市民や競技団体等と共有した上で、真に必要な施設整備を目指す。
- なお、評価基準に基づき最優先すべき施設整備を決定した場合には、上越市スポーツ協会をはじめ、関係団体全体で早期実現に向けた後押しをお願いする。

目的

- 公平・公正で、透明性のある施設整備の判断基準を明確化
- 市民・競技団体と将来像を共有し、合意形成を図る
- 効果的・効率的なスポーツ環境の維持・充実

位置付け

- 市総合計画、市総合教育プランとの整合
- 市公共施設等総合管理計画（市公の施設の適正配置計画）との整合
- 健康・福祉・防災・地域活性化などの各種施策との連携

教育委員会の考え方（整備方針）を整理

市長部局へ提案（予算要求）

現状・特徴

- 市所有のスポーツ施設は、体育館（23）野球場（9）多目的広場（15）テニスコート（8）プール（7）など、地域分散型で79施設を配置
※その他に学校施設（小学校42校、中学校19校）あり
- 稼働率が3割に満たない施設も多く、総体的に施設数は充足している状況であり、人口減少が進む中にあるは施設の供給過多は回避困難
- 昭和50・60年代に建設された施設が多く、経年劣化が進む中で、体育館は築40年を目安に施設の長寿命化対策（大規模改修工事）を順次実施
- スポーツ施設の維持管理費は全体で年間約7億円の支出となる一方、施設使用料などの収入は、実質的な受益者負担額で支出の2割程度（減免除く）
- 降雪地域に関わらず、屋外競技用の屋根付き練習施設が少なく、冬期間の練習場所の確保に苦慮
- スポーツ施設は地域の防災拠点や行事、文化・芸術活動など、スポーツ以外の様々な用途で活用

特記事項

- ✓ 照明設備について、各メーカーによるナトリウムランプやメタルハライドランプの生産中止が増えており、LED照明への切替が急務
- ✓ 猛暑対策について、換気扇、ドライミスト、スポットクーラーなどの空調設備の整備検討

7 スポーツ関係人口の将来見通し

(1) 上越市の人口予測（国立社会保障・人口問題研究所：令和5年推計）

区 分	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)
総人口	188,047人	176,550人	166,710人	156,976人	147,248人	137,456人	127,657人
0～14歳	22,085人	18,381人	15,482人	13,658人	12,820人	11,939人	10,817人
15～64歳	104,127人	96,489人	91,034人	84,292人	75,300人	67,236人	60,807人
65歳以上	61,835人	61,680人	60,194人	59,026人	59,128人	58,281人	56,033人

※ 総人口はR17には約1.9万人減（▲11%）、R27には約3.9万人減（▲22%）の見込み

(2) 各競技人口の予測（令和7年度実績：選手・コーチ・監督等の人数）

区分	R7		R12	R17	R22	R27	R32
サッカー	29団体	1,209人	1,141人	1,074人	1,007人	939人	872人
水泳	18団体	205人	193人	181人	169人	157人	145人
テニス	16団体	285人	269人	253人	237人	221人	205人
陸上	29団体	1,132人	1,068人	1,005人	942人	878人	815人
野球	95団体	2,217人	2,093人	1,970人	1,847人	1,723人	1,600人
ソフトボール	9団体	100人	94人	88人	82人	76人	70人

※ 各競技団体の令和7年度会員数を基に人口予測の減少率から競技人口を推計

主な重視すべき視点・意見 ※順不同

各競技団体 [サッカー、水泳、テニス、ソフトテニス、陸上、野球、ソフトボール]	教育委員会 [スポーツ推進課]
■ 利用実態に対して施設数が不足 ■ 大会誘致の可能性が高い ■ 老朽化が著しく、休館した場合の影響が大きい ■ 公式規格（ルール改正）の不一致 ■ 施設の統廃合で財政負担を低減 ■ 冬期間や悪天候時の代替不足 ■ 他競技との複合利用 ■ 実現可能性（財源） ■ 選手の育成 ■ 市内経済の活性化 など	□ 安全性の確保（老朽度） □ 需要・利用実態との整合（施設規模・配置） □ 冬期間の練習環境の確保 □ 拠点化による機能集約（既存施設の統廃合・再編） □ 公式規格（ルール改正）の不一致 □ 学校・教育機関との連携 □ 公益性・地域への波及効果 □ 投資効果（多目的・多用途利用） □ 実現可能性（財源・用地）

A:最優先 (緊急性が高い)	B:重要 (中期で整備すべき)	C:再検討 (長期的に検討)	D:保留 (検討見送り)
- 事故や休止のリスクが高いこと - 代替困難で練習や大会運営に支障が生じること - 施設の集約化・多目的化・複合利用化による投資効果が極めて高いこと	- 利用需要に対して施設が不足していること - 代替は可能だが十分ではないこと - 経済波及効果を生み出すイベントを定期的に誘致できること	- 利用需要に対して施設が過剰であり、機能集約が合理的であること - 現時点では左記A・Bと比べて緊急性や必要性が低いこと	- 利用実態が限定的であること - 将来需要が見込めず、投資効果が低いこと

【特記事項】

- ✓ 最終的な施設整備の決定は、市政全体の中で総合的に判断される。
- ✓ 施設整備に係る財源の確保に向けて、全ての既存施設を対象に、稼働率や老朽度、配置バランス等を考慮しながら、施設の廃止（貸付・譲渡）を進める。
- ✓ 優先度判断基準は、市民ニーズを踏まえ、必要に応じて適宜見直す。

今後の進め方

- 新たな施設整備に向けて、市長部局と協議・調整
- 既存施設の適正配置（統廃合）の計画的な実施
- 市民や競技団体との継続的な対話
- 利用実績データの定期的検証
- 社会情勢や競技人口の変化等に基づく整備方針の適宜見直し

目指すべき将来像

★上越市第3次総合教育プラン（＝上越市第7次総合計画）

プラン4 スポーツの振興（取組4－2 スポーツ環境の充実）

スポーツ施設が適正に配置され、安全で快適にスポーツができる環境整備を目指す

- 安全で快適なスポーツ環境を維持していくため、ユニバーサルデザイン指針等に基づき、施設や設備、用具の機能維持に努めます。
- 利用実態やニーズの変化などを踏まえ、施設の統廃合や機能の拡充、新たな施設・機能の整備などを計画的に進めるなど、スポーツ関連施設の適正配置に取り組みます。

令和7年	3月	24日	上越市スポーツ協会（施設委員会）に各競技団体との要望内容に関する勉強会の結果報告
	10月	2日	上越市スポーツ協会に「スポーツ施設の新設・改修に向けた検討について（たたき台）」を説明・意見聴取
			各競技団体に（たたき台）に関するヒアリング 10月28日～11月6日まで
	12月	22日	上越市スポーツ協会に各競技団体のヒアリング結果の報告・意見聴取
令和8年	2月	1日	総合型地域スポーツクラブに「これからのスポーツ施設の整備に向けた考え方について」を説明・意見聴取
	3月	12日	上越市スポーツ推進審議会に「スポーツ施設の整備について」を説明・意見聴取
		26日	上越市スポーツ協会に「上越市スポーツ施設整備方針（たたき台）」を説明・意見聴取
	6月	12日	上越市スポーツ推進審議会に「上越市スポーツ施設整備方針について（案）」を説明・意見聴取
	予定	25日	教育委員会協議会で「上越市スポーツ施設整備方針について（案）」を説明・協議

令和8年度から新たに「改革実行期間」がスタートすることを踏まえ、将来にわたる生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会の確保・充実等を図るため、**部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関して、国としての考え方を示すもの**

※公立中学校等が主な対象（「Ⅳ 学校部活動の在り方」については、国立・私立を含めた中学校及び高等学校等が対象）

Ⅰ 部活動改革の基本的な考え方・方向性

- 1 改革の理念
- 2 取組の類型・名称（地域展開・地域連携）
- 3 改革の方向性
 - （1）基本的方針
 - （2）改革期間及び取組方針（休日・平日）
 - （3）留意事項

Ⅱ 地域クラブ活動の在り方及び認定制度

- 1 地域クラブ活動の在り方
- 2 地域クラブ活動に関する認定制度 ※詳細は別冊資料①を参照
 - （1）趣旨
 - （2）想定される認定の効果
 - （3）認定制度の概要（認定要件・認定手続等）
 - （4）認定されていない地域クラブ活動の取扱い

Ⅲ 地域展開の円滑な推進に当たっての対応

- 1 推進体制の整備
 - （1）地方公共団体における体制整備
 - （2）国・都道府県・市区町村等・地域クラブ活動の運営団体・実施主体の役割分担
 - （3）地域クラブ活動の運営団体・実施主体による生徒が所属する中学校等との連携
 - （4）関係団体等・大学・民間企業との連携
- 2 各種課題への対応
 - （1）運営団体・実施主体の整備等
 - （2）指導者の確保・育成
 - （3）活動場所の確保
 - （4）活動場所への移動手段の確保
 - （5）生徒の安全・安心の確保
 - （6）障害のある生徒の活動機会の確保
- 3 生徒のニーズの反映及び地域クラブ活動への参画促進等

Ⅳ 学校部活動の在り方

- 1 適切な運営のための体制整備
 - （1）学校部活動に関する方針の策定等
 - （2）指導・運営に係る体制の構築
- 2 適切な指導及び安全・安心の確保
 - （1）暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の根絶
 - （2）合理的かつ効率的・効果的な活動の推進
 - （3）競技ごとの指導手引きの普及・活用
- 3 適切な活動時間・休養日等の設定
- 4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備

Ⅴ 大会・コンクールの在り方

- 1 生徒の大会等の参加機会の確保
- 2 大会等への参加の引率や運営に係る体制の整備
 - （1）大会等への参加の引率
 - （2）大会等の運営への従事
- 3 生徒の大会等の安全確保
- 4 全国大会をはじめとする大会等の在り方

Ⅵ 関連する制度の在り方

- 1 教師等の兼職兼業
- 2 教師の人事における学校部活動の指導力の評価等
- 3 高等学校入学者選抜における学校部活動・地域クラブ活動の取扱い

別冊資料

- ①地域クラブ活動に関する認定制度（指導者登録制度を含む。）
- ②部活動の地域展開等に関する参考資料

「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」の概要（主な内容）

改革の 理念等

- 急激な少子化が進む中でも、**将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実**
- 障害のある生徒や運動・文化芸術活動が苦手な生徒等を含め、**全ての生徒が希望に応じて多種多様な活動に参加できる環境を整備**
- 地域クラブ活動においては、**学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展**させつつ、地域全体で支えることによる**新たな価値を創出**

【中間評価】

改革期間	令和5年度～7年度 「改革推進期間」	令和8年度～10年度 「改革実行期間」（前期）	令和11年度～13年度 「改革実行期間」（後期）
取組方針	休日 改革実行期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す ※現時点で着手していない地方公共団体においても、前期の間に確実に休日の地域展開等に着手 （中山間地域や離島等で地域展開が困難な場合には、当面、部活動指導員の配置等を推進） 平日 各種課題を解決しつつ、更なる改革を推進（まずは、国において実現可能な活動の在り方等を検証） ※学校部活動をベースとした地域との連携など、地域の実情等に応じた多様な改革を進めていくことが重要		
認定制度	競技力向上を主目的としたチーム・スクール等との区別や質の担保等のため、国が示す要件等に基づき、市区町村等が地域クラブ活動の認定を行う仕組みを構築 【呼称】「認定地域クラブ活動」 【想定される認定の効果】 公的支援（財政支援、学校施設の優先利用等）、大会・コンクールへの円滑な参加等 【主な要件】 活動時間（平日は1日2h程度以内、休日は1日3h程度以内） / 休養日（週2日以上、休日のみ活動の場合は土日どちらか） / 低廉な参加費 / 指導体制（日本版DBS活用を含めた不適切行為の防止徹底、指導者研修・登録等） / 安全確保 / 学校等との連携		
地域展開の円滑な推進に当たっての対応	推進体制 国としての取組方針の提示・地方公共団体への支援・周知広報等 / 都道府県のリーダーシップ / 市区町村等が改革の責任主体 / 専門部署の設置・コーディネーターの配置 / 生徒が所属する中学校等との連携 / 関係団体等・大学・民間企業との連携等 各種課題への対応 ①運営団体・実施主体の体制整備等 ②指導者の確保・育成 ③活動場所の確保(学校施設の有効活用等) ④移動手段の確保 ⑤生徒の安全確保 ⑥障害のある生徒の活動機会の確保 ※6項目について具体的な取組内容等を整理 ニーズ反映・参画促進等 生徒等のニーズの把握・反映 / 地域クラブ活動への参加促進のための情報提供等（体験会の開催、入学説明会等でのオリエンテーション、ポータルサイトなどによる一元的な情報提供等） / 生徒のクラブ運営等への参画（生徒同士の話し合いなど）		
部活動の在り方	● 適切な運営のための体制整備（部活動に係る方針策定、部活動指導員等の配置や合同部活動の実施、勤務時間管理・業務改善等） ● 適切な指導及び安全・安心の確保（暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の根絶、事案発生時の迅速な対応・再発防止、過度な練習等の防止等） ● 適切な活動時間・休養日等の設定 ● 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備		
大会等の在り方	● 生徒の参加機会確保（地域クラブ活動等の参加促進等） ● 大会等への引率や運営に係る体制整備（教師以外の関係者の参画促進等） ● 生徒の安全確保（熱中症対策等） ● 大会等の在り方の見直し（多様なニーズを踏まえた大会等の開催等）		
関連制度	従事を希望する教師等の兼職兼業の円滑化（中学校教師だけでなく小学校教師（体育専科等）や高校・特別支援学校の教師等を含む） 教師の人事・採用での部活動指導力の評価における留意、高校入試における取扱いなど		

地域クラブ活動に関する認定制度の概要

認定スキーム

- 国が示す認定要件等に基づき、市区町村等が認定を実施
- 地域クラブ側からの申請を受け、市区町村等において審査の上、認定
認定後も、市区町村等が適切に指導助言等を実施



- ※国が示す認定要件に沿って、市区町村等が自ら運営する地域クラブ活動については、認定したものと同みなす
- ※認定の有効期間は、最長3年間の範囲内で、地域の実情に応じて市区町村等において設定

認定要件

事項	主な内容
①活動の目的・理念	・学校部活動が担ってきた教育的意義の継承・発展、生徒の豊かで幅広い活動機会の保障（選抜等を行わず、参加を希望する生徒を幅広く受け入れることを含む）
②活動時間・休養日	・平日は1日2時間程度以内、休日は1日3時間程度以内 ・週2日以上以上の休養日を設定（休日のみ活動する場合は、原則、土日どちらかを休養日に設定）
③参加費等	・活動の維持・運営に必要な範囲で可能な限り低廉な参加費等を設定（国が示す目安を踏まえる）
④指導体制	・暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の防止徹底（日本版DBSの活用を含む） ・市区町村等が定める研修を受講し、登録された指導者等による指導（※） （※）「認定地域クラブ活動指導者」登録制度を構築（研修メニュー例、登録要件・手続等、不適切行為への対応等について規定）
⑤安全確保	・生徒の健康状態や気温等を考慮した適切な活動、施設・設備等の点検、緊急時の連絡体制整備 ・怪我等を補償する保険及び個人賠償責任保険への加入（参加者及び指導者等）
⑥運営体制	・関係法令の遵守、規約等の作成・公表、公正かつ適切な会計処理、営利を主目的とせずに運営
⑦学校等との連携	・活動方針やスケジュール、生徒の活動状況等に関する情報共有

（※）円滑な実施の観点から、一定期間の経過措置を設ける（原則として令和8年度末まで）

想定される認定の効果（メリット）

- ①生徒・保護者等に対する市区町村等による情報提供
- ②地域クラブ活動の運営等への公的支援（財政支援、学校施設等の優先利用・使用料減免、学校備品等の活用等）
- ③地域クラブ活動への従事を希望する教師等の兼職兼業
- ④生徒の大会・コンクールへの円滑な参加